

## 札幌市立地適正化計画に対する意見の概要

## 大人

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	0	0	0	1	1	8	2	1	13

提出方法	持参	HP	郵送	Eメール	FAX	不明	合計
人数	0	6	6	1	0	0	13

分類	件数
全体	3
1 目的と位置付け	4
2 これまでの都市づくり	1
3 都市づくりの理念、基本目標等	8
4 居住誘導の基本的な考え方	3
5 都市機能誘導の基本的な考え方	11
6 各区域及び誘導施設の設定	1
7 施策の方向性	3
8 事前届出	0
資料編	1
合計	35

## キッズ

学年	人数
小学4年生以下	0
小学5年生	9
小学6年生	20
中学1年生	8
中学2年生	12
中学3年生	4
不明	0
合計	53

## 意見の概要

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
1	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆区ごとの個性がでる計画が必要</li> <li>・規制緩和の特区を設けて、人口減少と高齢化の著しい南区は、病院や老人ホームを誘致するなど</li> </ul>
2	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「老朽インフラ整備」について具体化すべき</li> <li>・冬季五輪誘致、アジア開催は諦めるべきであり、公共事業はインフラ整備に向けるしかない。</li> <li>・意見募集は一部の住民にしか周知されていない。今後はもっと多くの住民に周知し、結果反映するべき。</li> </ul>
3	-	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆北海道大学と札幌市の連携・協働</li> <li>・「北海道大学と札幌市のまちづくりに関する地域連携協定」は有効期間が終了したが、地域の一層の活性化に寄与し、相互の連携と協働を更に強化するため、関係者の意見交換の場について検討をお願いしたい。</li> </ul>
4	P2	1 目的と位置付け 1-1 背景と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆制度内容がわかりにくい</li> <li>・都市計画制度(地区計画制度)と立地適正化計画制度の違いがよくわからない。</li> <li>・立地適正化計画は、都市計画の下位計画なのか。</li> <li>・違いを対比するなど、わかりやすく解説してほしい。</li> </ul>
5	P3	1 目的と位置付け 1-2 位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆計画と1つにすべき</li> <li>・立地適正化計画は、都市計画マスタープランの一部であるなら、都市計画マスタープランに集約したほうが読みやすい。</li> </ul>
6	P3	1 目的と位置付け 1-2 位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆除雪に関する施策が必要</li> <li>・除雪についての政策を取り入れてほしい。</li> <li>・障害者が参加できるものを議論すべき。</li> </ul>
7	P6	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人口構成も示すべき</li> <li>・人口減少だけではなく、年齢構成も計画すべき</li> </ul>
8	P7	2 これまでの都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆オリンピック等の誘致の影響</li> <li>・オリンピックパラリンピック開催の誘致にあたって、都市計画が問題を引き起こす可能性はないのか。</li> </ul>
9	P10~11	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コンパクトシティ(団地形成)の提案</li> <li>・エネルギー効率のよい建物、ガスコージェネ発電、地下駐車場、電気自動車の充電スタンド、屋上に太陽光パネルを設置しLEDライトで採光補完、くもりガラスやブラインダーでプライバシー確保など。</li> </ul>
10	P10~11	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市営のサ高住を供給</li> <li>・市営で安く入居できるサ高住を供給し、高齢者の転居を促進。集合型住宅の方がエネルギー効率がよく、孤独死防止にもなる。</li> </ul>
11	P10~11	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆独身寮型市営住宅供給</li> <li>・昔の独身寮のような市営住宅を作る(1室1間、トイレと台所のみ、フロなし)。食事、風呂が共同で人のつながりが出来、孤独死防止や省エネの効果がある。離婚者や若者なども入居し、世代間交流も可能。</li> </ul>

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
12	P10～11	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	◆アパート空室の共同利用 ・空室を活用し、アパートや近隣の住民が集まって過ごす。省エネ効果、人のつながりもできる。インセンティブ(固定資産税免除等)により共同利用を促進した方がよい。
13	P11	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	◆環境・エネルギー問題に対する具体的な内容を示すべき ・生物多様性の喪失は国家規模の問題だが、立地適正化計画では、どのように反映されているのか。具体的に示してほしい。
14	P12	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-1 都市をとりまく状況の変化とその課題	◆ライフスタイルの多様化について情報不足 ・ライフスタイルの多様化についての市からの提案の情報公開がなされていない。
15	P15	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-2 都市づくりの理念、基本目標等	◆地方都市の考え方を聞くべき ・札幌中心の考え方でいいのか、地方都市の考え方を聞く必要はないのか。
16	P16	3 都市づくりの理念、基本目標等 3-2 都市づくりの理念、基本目標等	◆定義と基本方針の説明が必要
17	P21	4 居住誘導の基本的な考え方 4-1 人口の動向	◆人口減少の要因が違う ・老年人口横ばいが主要因ではなく、若年層が札幌から出ていくのではないか。
18	P30	4 居住誘導の基本的な考え方	◆災害時の広域避難場所及び避難施設として北海道大学の土地を有効利用 ・北海道大学が地域の避難場所として明確に位置づけられ、避難施設の機能(非常時の電力や水、備蓄庫)、非常時にキャンパスを横断する道路整備を協同で行う等、札幌市と連携できないか。 ・横断道路が整備されることは、市立札幌病院と北海道大学病院の物理的な距離を縮めることから、平常時の連携強化を見据えた両病院の機能改善等の可能性を検討いただきたい。
19	P31	4 居住誘導の基本的な考え方 4-6 まとめ	◆コンパクトシティへの住民のニーズ把握 ・コンパクトシティについて、老後も郊外に住みたい住民の希望をどうとらえているか。
20	P33	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-2 公共サービス機能	◆公共サービス機能に介護相談を設けるべき。
21	P33	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-2 公共サービス機能	◆プール施設の整備 ・北区には25mの公共のプールがない。 ・新琴似で計画されている公園内か周辺に、プールを設置して頂きたい。 ・周辺に保養所も計画いただきたい。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
22	P33	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-3 地域の魅力を高める都市機能	<p>◆観光施策の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市地域の魅力を高めるためには、市民が住みやすい、好きになれる街であることが大切である。</li> <li>・外人観光客の集客のために、市民の生活環境を破壊するようなもの(中国語・韓国語の標識、チンドン屋みたいな市電など)が溢れている。</li> <li>・「間違い観光施策」の排除も都市計画の重要視点である。</li> </ul>
23	P33	5 都市機能誘導の基本的な考え方	<p>◆“地域交流拠点”に北海道大学キャンパスを指定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民になじみの深い豊かな自然が多く、都市の中のアオアシスとなっている。</li> <li>・歴史的建造物も多く、研究成果の展示や市民公開講座等の生涯学習機能をもつ魅力あふれる場所となっている。</li> <li>・キャンパス敷地を有効活用すべく、札幌市と本学との連携を図っていきたい。</li> <li>・北キャンパス地区は、将来の共同開発地として高いポテンシャルを持っているため、各種インフラ等充実への協力について検討をお願いしたい。</li> </ul>
24	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆記述が抽象的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的であり。都市間競争ではすでに札幌はかなり遅れている。札幌市は重要な事を迅速に処理する力を欠けている様に思う。</li> </ul>
25	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆都心への施設誘導が不適切(高次都市機能を有する施設、教育文化施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心集中を助長するもので不適切であり、分散して配置することが札幌市全体の成長に繋がるはず。</li> <li>・都心から離れた拠点が栄えるような施策を求める。</li> </ul>
26	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆一極集中は望ましくない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都心への一極集中は望ましくなく、MICE 関連施設は、地域交流拠点における誘導施設として設定し、市内に分散させるほうが望ましい。</li> </ul>
27	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆南区へのMICE機能の集約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他区と比較して「集合型居住誘導区域」が少ない。</li> <li>・利便性を良くして魅力のある街に誘導すべきだが、具体的な改善策がない。MICE機能を南区に集約してはどうか。</li> </ul>
28	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆防災対策(避難場所等)の明示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に避難場所、延焼防止、ボランティアの活動制度、仮設住宅用地、救護物資備蓄用地、駐車場等に活用するオープンスペース確保は計画の中に明示させてほしい。</li> </ul>
29	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方 5-4 都市の魅力を高める都市機能	<p>◆企業誘致による産業活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本社機能の一部である「事務センター」又は「コンピューターのバックアップ装置」の誘致が札幌市にふさわしい。</li> <li>・広大な土地と人の資源が豊富であり、建設業、飲食関係などの雇用が増加し、市には固定資産税が入り、住民税も増収になり、経済も活性化する。</li> <li>・目標として、上場企業の5%で100社が誘致できれば1万人の新たな雇用が生まれる。</li> <li>・IT産業に若者が興味を示せば、高いスキルの人材を育成し、大学教育のレベルアップに良い影響を与え地元就職が増える。</li> <li>・観光産業と並ぶ長期ビジョンとしての産業育成を検討してほしい。</li> </ul>

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要
30	P34	5 都市機能誘導の基本的な考え方	<p>◆MICE関連施設等の開発に北海道大学を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市と連携し、海外からの滞在者宿泊施設の整備も含め、本学の土地の有効活用を図り、より多くの会議を開催することは、会議出席者を満足させ、札幌市・北海道大学双方の活性化に貢献する。</li> <li>・豊かな緑地を残しつつ機能的に本学キャンパスの土地利用を図るためには、施設の高層化が重要であり、絶対高さ制限の緩和の検討をお願いしたい。</li> </ul>
31	P35～36	6 各区域及び誘導施設の設定	<p>◆集合型居住誘導区域設定の根拠提示が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住誘導区域以外は戸建て住宅しか認めないなら、用途地域の変更を行う意向があるのか。</li> <li>・かなりの既存不適格建築物が発生するが、財産権の侵害であり、合理的理由を行政は明確に示すべき。</li> <li>・自己流に集合型居住誘導区域を設定し、区域外で届け出を出させようとするのは法を逸脱している。</li> </ul>
32	P37～46	7 施策の方向性	<p>◆もっと具体的なアイデアが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺都市との連携について、石狩と共同で港、土地等の活用。千歳空港のアクセスラインの増設。京急等民間活用等。</li> <li>・短期投資で費用対効果をもっとあげるべき。</li> <li>・競争原理を持たせ、厳しく実力主義にして、市民に安心感を与えて欲しい。</li> </ul>
33	P45	7 施策の方向性 7-4 交通に関する施策	<p>◆「どのように」という大事な部分が抜けている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通や道路ネットワークは、どのような立地適正化計画の手法で実現するのか。</li> <li>・バスの項目の「除排雪の強化」「需要に応じたサービス水準の確保」など、インセンティブを与えることや規制をかけることなく、希望だけを書いているだけか。</li> </ul>
34	P45	7 施策の方向性 7-4 交通に関する施策	<p>◆地下鉄白石駅と西28丁目駅を結ぶバス路線</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南19条の環状通(道路)は、豊平川でバス路線が分断され、公共交通を利用した東西の往来が直接できない状態である。</li> <li>・地下鉄白石駅と西28丁目駅を結ぶバス路線を実現すれば、市電との相乗効果もあり、人の動きは変わる。</li> </ul>
35	P51～54	資料編 集合型居住誘導区域・詳細図	<p>◆集合型居住誘導区域(澄川地区)の再考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・澄川地区の東部の一部が、一定規模の集合住宅が立地しているにもかかわらず、集合型居住誘導区域に設定されていない。</li> <li>・法に基づき届け出という行為を強いる以上、きちんと公正に区域設定してほしい。</li> </ul>